



南總里見八犬傳卷之四

東都 曲亭主人編次

第七回 景連奸計信時を賣は  
孝吉節義実小辭を

校倉木曾少氏元が使者。蟹崎十郎輝政東條よりお世を承りて。麻呂信  
時が首級と進めて。又けみべ。美実ハ大床子のほとり。小出く件の使者を  
ちく石せ合戦のる体をみづく向せりひづく蟹崎十郎おうじます。  
兵糧えくまつまつ。氏元豫くおろみかき。百姓们と催促。運送せよ。と  
海陸の通路と塞だ。小荷駄を取らんと。これを使繩の難長。小及び  
あら。氏元すく。憂鬱。いづくか日を過ぐ。方。おもよ景連一夕。

竊。家隸某甲をり。氏元より力を。山下定包も逆賊。へりや  
蘇秦張儀。とりて百遍千遍相譚し。も差引へり。ひそみ信時  
そのうさとく。渠がる小途。爲塞。犯良將勇士を苦め。ひそみ信  
浅猿。と後悔。脣を噬ひ。のう。信時只。官鎌と磨く。锐とも忍ひ。人  
まひ。足も亦靴と隔て。瓣を搔く。ふ異なり。じ。信事の情と量る。小信  
時。匹夫の勇士利のる。よ。兵を忘。も。貪れども飽。と。景連舊  
好を。おふね。一。旦合體。も。と。り。ども。り。恨を改。と。狂人を追ふ。不  
狂人。走る。共。か。む。か。く。か。へ。い。呼。詮。合體の念。ひ。伏。翻。し。よ。う。信時。と。極  
して。兵糧運送の路。と。開。た。里見殿。よ。力。を。戮。く。賊首定包。を。討。滅。  
大義を舒ん。と。ら。ふ。の。ミ。曩。ゆ。と。ま。く。未。臨。せ。と。き。ー。里見殿。を。要  
ふ。そ。だ。あ。う。ド。態。礼。保。あ。り。へ。彼。信時。が。拒。ゆ。乞。わ。う。敵。の。和。敵

城を。か。短。兵。急。攻。う。と。信時。へ。野猪武者。へ。敵。と。そ。く。思。慮。も。う。一。陣。小  
進。ん。ど。そ。の。と。景連。後。陣。よ。さ。て。按。こ。と。底。較。ば。信时。と。す。取。ふ。せ。ん  
ず。當。ひ。然。返。づ。如。え。孤。疑。と。大。事。を。惧。ひ。ふ。と。そ。く。回。答。底。俟。と。り。へ。り。  
あ。う。と。ど。氏。元。へ。敵。の。謀。ふ。り。や。と。名。ひ。と。バ。俳。こ。く。後。り。と。使。者の。往。通  
ひ。度。か。き。な。う。と。く。猶。る。と。じ。坐。え。小。け。と。六。さ。八。信时。を。報。む。と。そ。安。西。ふ  
諜。と。合。せ。降。と。降。む。と。五。月。雨。の。黒。白。も。こ。う。暗。夜。よ。二。百。騎。騎。と。卒。一。  
枚。を。銜。と。撫。め。麻。呂。信。時。が。屯。せ。居。瀬。萩。の。柵。の。前。渡。う。生。き。と  
推。ト。舟。と。用。火。咄。と。つ。く。と。掛。を。二。三。と。突。く。入。る。敵。よ。と。一。六。あ。わ。ひ  
かけ。な。れ。た。麻。呂。の。一。陣。劇。騒。だ。と。繫。る。馬。小。鞭。を。當。田。弦。な。だ。ら。小。箭。前。を  
と。す。と。深。糸。立。と。脚。痺。な。い。ぐ。ロ。活。路。と。求。る。の。ミ。防。戰。入。と。き。の。み。る。い。  
そ。の。と。先。信。時。声。を。激。い。懲。じ。げ。る。そ。の。の。共。う。と。敵。へ。正。く。小。勢。と。推。包。で

争ひとちよや。義満まで前ある。安西も笑ひて。そひよ進む。と列へて。  
令へて。真先小馬乗出。簾アうちとうち揮て。遍入る寄り成突倒を。  
その勢ひは正に是群の羊の中に入る猛虎の暴れ。小異ハたゞ。士卒の  
立てよ勵させ。將後陣なる安西が援来なんとひえ。逃んとし。脚蹕を  
旋らへ。號叫く戦ふ。あらうあらう。船方の先鋒外面へ追え。され路のゆく  
足も足も。と。アマリ引ひ。當下松倉氏元の眼死瞪し。声戸を  
あり立。一旦破。二の柵を追え。立。エヤ人ある名を惜し。孤志るのみ。  
已日ふ続け。といひあへど。白旗株と腰は。伸燈を鳴かす。馬と進めて。鳥  
夜ふ早く長刀を。水車のゆく。伸廻して。信時小聲よ。轟き。箭の火光が信と  
己。波ハ氏元歛へ。其如る退そ。と。ひびき。簾を捺て。鐵と突く。  
度石と受けて。落ス。引ひつけ入り。と。馬が困た。一上一下と。鐵盡を。大

特の工くな。船方の敵も。兵をく相助。あ暇な。氏元と信時へ  
人を難と。戦ふ。信時焦燥と。突出と。槍の尖頭を。氏元へ左をへ丁と。拂  
除。あらと。號々。向う。而。長刀の柄を。拿め。内兜へ突入と。むづ。西ふ  
衝落せば。さす。の信時。灸所の痛む。から。據。簾が。ゆか。も。う。ぐ。馬。ある。  
握と。滾落。立音ふ。臣。まへ。え。ス。り。く。お。が。じ。く。お。ま。よ。お。く。そ。の。頭。取。く。い。と  
云。お。せ。こ。く。物。の。あ。く。ま。く。美。宴。つ。く。と。う。も。か。く。氏。元。が。そ。の。夜。北。軍。功。  
賞。を。う。か。ほ。き。と。も。計。零。各。足。が。り。け。ア。景。連。猛。小。心。裏。表。及。す。と。信。時。を  
輕。と。あ。る。そ。の。故。る。く。あ。く。ま。く。夫。兩。雄。ハ。立。立。と。信。時。景。連。祖。與。小  
口。を。成。輕。と。も。早。か。提。だ。心。要。強。生。ざ。ぐ。し。恐。る。然。氏。元。め。ぐ。ま。く。安  
西。が。そ。の。う。さ。と。く。信。時。を。輕。と。り。へ。船。方。の。為。小。利。ハ。な。く。と。日。景。連。が  
あ。ま。く。わ。う。る。彼。安。西。ハ。何。と。う。あ。る。と。問。せ。ま。ハ。蟹。峰。十。郎。さ。い。景。連。へ

その夜、朝方のあふ征箭一條も射ぬ。の籠ゆう前、あつてる柵を  
退ひく。と、荅やうせが、義寔の扇をひく。勝残鼓をうち。既に景連が  
奸計ハ著れり。又が滝田を攻め。勝敗測じ。とくとも定包も天神地  
祇も憎せ。人の手もさぬ逆賊なり。一旦その利あふ所へたるも始  
終全う。景連は名ひえん定包竟も滅亡し。義寔そ地を有す及  
び。信時ハ安西が翼小さるべ死のうじ只大むすりふ勇や虎のこ興ふ  
謀の軍兵せ。脆く負なんと死かそよぐ。陽少ひ義寔と合體。と氏元と  
信時を替せ。景連ハその虜ふ衆ト。平館を攻め。朝東郡分合せ領し。  
牛角の勢ひ久張らんと。鼓一扇へ外ゆく。ゆる。推量ハ違ひト。とその脾  
肝然指をひく。と精細又宣ふ折。氏元が再度の注進。某ひととこそを付。某  
アも。信時既に替れ。と残兵額よ奉と騒ぐ。逃れ氣直と追捨て氏元を  
軍兵残縦ちく。被て東條へ帰陣。とひひ。ふ豈かりんや。景連へ名前  
原を退ひて平館の城を棄取。麻呂が采地朝夷一郡。みるが物。每り。  
狗骨をり。鷹鳥小捉せ。氏元へ勞りて功る。かん勢を。先鋒を  
奉。アも。朝夷一郡り。ばさうなり。景連が根城を屠。アも。この憤を敵をへ。  
このより。ちじめ。孝吉貞行。小書簡。とあせり。金碗も壇内も。小  
至つまく。その君の聰察睿智。又感伏。と。而も景連殘討。人と頻り。小勸を  
奉。アも。義寔院残うち。掉て不。安西へ討へ。うじ。又定包を滅せ。ハ。まう。業  
利残ら。す。あくまで民の塗炭残救ん。あく。農人のちうづふ。うじ。長挾平  
郡の主と。ちろ。よ。己が幸ふ。うじ。景連秉雄。とすとい。また定包が頼  
ふ。まう。その底意。あくまう。まう。志がつと。小寄せ木曾。氏元が信時と  
争ひ。及び。渠のうちを。平館なる。城を接し。残唱し。とく。軍を起。地を争ひ。

奮觸の境さざなみか迷さまよひく。人ひとが殺ころ一民ひとを損そんふそへりがせざる所ところへ景連奸計けいれんかんけい行はれて、並なが館たてを取とるとりども、るる喧ごうごらご政せい來きるわゆわゆが。一時ひととき小雄こゆを決きたべたべしも、  
わゆわゆは境さざなみを成なまつた。ささととすとと知しつたゞさく。金かなここ旨じととうのううとと町鑑まちかがふ  
喻たとえたとへ考か士しきとと見みららへへ。ゆめゆめのううとと左さ右うおおははる。近ちか習なら革かわ筆ひ筆ひ崎さきホホリリスス共とも。  
感佩かんぱいせせろろりりののよよううのの聖せい賢けんももじじううややすすある。とと顧く稱めい贊さんああり  
けけ。かかくくへ長なが宴うたげハハひづづく氏うじ元もと又また書かきををああわわすす。ままりりよよ、  
討うこうこう禁き止しららへへ物ものをを取とりとんとくく。ここががみみ許ゆとと高たかくく渠きとと賞たん渠きとと喻たとへへ安やす西に、  
去よくくむむ重おへへ凡ふのの列れ兵ひょうちちう。龜かめ城じの外ほか地じ更さらああべべららとと鑿くくく筆ひ崎さき十じ郎ろう、  
筆ひ崎さき還もひひ。ととくくよよ福ふくよ夏なつ寒ひんううしし御ご花はな降ふ晴はる日ひくく。風かぜややうう日ひくく、  
至いたつつたた。じじようよう六ろく月つきの土用どようるるみみああよりよりみみけけアア。この時このとき安西景連あんせいけいれんはは甚ひ戸ひ納な平ひらとと老お黨とう、  
兩りょう三さん種しゆの土產どさんとと齎たらしし櫛田くしの城じへ遣おそそく。定包じょうぱう頤い減げん山さんへへ。長なが宴うたげらら基き、  
開ひら祝しゆくとと迹あとをを通と。裏うらの鳳ほう眉まゆと接つせせ。景けい慕まうののありひひ遂とよよるる後ご。  
只ただ着きたたくく信しん時じ、席せきをを祀まつささくく意外いがいの不ふ礼れいささ。丁てい度どはは昔むかの文ぶん公こう賛さんをを  
遇ありり憾憾不ふ似そ。ももううこととそののののああくく、誰だうう君きみを激げきしてしてのの本業ほぎょう然ぜん  
與よくく至いたるる實じをを推すべべ初はじより。大おききくくみみびび君きみとと名なふ景連けいれんががすす志しふふて假まよ  
強き願ねりりととほほささ。かかる故ゆゑよ馬ば畜ぞくをを告こくく君きみががああはは信しん時じをを除のけけままたた陽ひ、  
報ほうああ。不ふ思し議ぎよ附つき膜はの功こうよりりて平ひら館たての城じを獲とう。一いつ四よ郡ぐんををみみる  
ちちく。犯はままこととちちく枝翼えんきとと児孫こののとと生うままくく傍そべべるる樂う一いつ身みべべるる、  
ややううむむ些さ少すくなの野品やひんそその美うつく足あしうう能のうと乘馬のりま三足さんし白布しらぬ百尺ひゃくしゃく酒さけ一いつ斗とう、  
進すすむむ。只ただりりややうう文ぶんのの変かううとと祈ねるるのの三さん枚まい車くるま五ご人じとと飯めし懃かしこ、  
りりせせええ。壇だん内うち負おううとと次つぎ。使者ししゃの口く状じ云い云いとと美うつく宴うたげをを告こううせせばば、  
實じ疑ねふ氣き色いろなくなく。極きわくく負おう考か吉よくく。甚ひ戸ひ納な平ひらをを齎たらししせせ。こことと立たみ

使者不對面せん等兩みよて歎待せよと町寧小竹主が負れ孝吉承ひき  
 爵が質をいこうりとなくとく被老裡歎見ゆひゆう景連案ふる  
 與し。徳川幕よりのたゞよば當圓ゆへるれ鯉を求めく殺さんとへ計ふる  
 べ。今さうか虚う死壽を述ねて通ド些の物承贈す。その意は牆を  
 きるわらえあはその奸計をくべき。使者を歎待ゆとく御對面へ物  
 体み。と竊よ練ゆうせーふ。美実莞尔とうち笑そ。景連へ實情りて  
 あよぬ然通せばと。今策と云うと。とくに憎む死ぬみあとよき  
 あくもふこまきあう能くも。その舊西郷外見つ。文齊結びまく。と彼は  
 背くあり。のゆくゆく争ひ入みみづく張不義とせん。不義めて  
 捨とあくとも。義寔ハ於く。努力と難く。バハくど。とくともくも説諭く。  
 みべうち使者不對面。納平が還す。小豆ひく。共小金碗ハ郎歎。安房郡遣

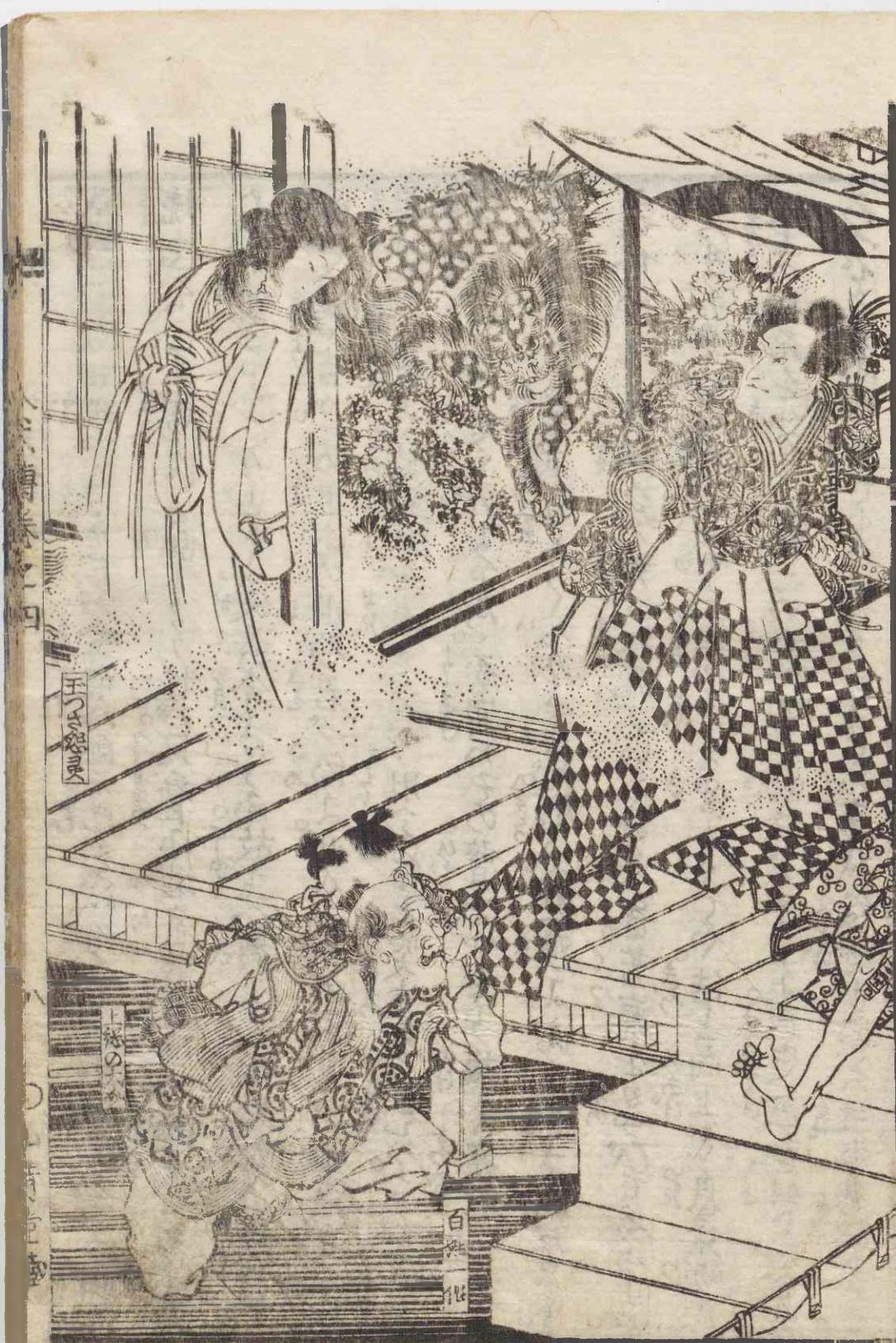
く。圭壁の礼小答へ財のゆく贈りのく。ゆくやく交を破うと誓  
 う。がく年。もく。まく。  
 もく。景連ちだよ移びく孝吉をかく歎待。もく。誓書をよめく。  
 義寔かく。けく。是よく。安西ハ安房朝東の二郡承領。義寔ハ  
 神餘の舊領長挾平郡の二郡承領。そ。犯と工とく。争ふと。そく。世を  
 のど長間。すく。かく。じく。松倉木曾日氏元ハ東條より至る久はきて。そく。世を  
 安堵のつむがる。君臣上下笑ふ。向く樂く。とといひのほがま  
 と。まく。ホー。  
 稲ふ七月の日生。ある夜ふかな。下小けと。その夕く。よく。義寔ハ端ちまく  
 おまく。松倉氏元壇内貞行。金碗孝吉ホ功臣のまく。召裏く。白茶の  
 礼緯をひく。じく。里見の家例ゆ。白茶の禮と  
 おまく。おまく。この房総志料ふく。來く。戒緒ひく。からく。せく。褒ひ。ひ  
 まく。この功臣をかく賞ふ。予。が孝吉二郡承領。そく。波風たがちも  
 の。と。かく。小事繁く。祈ア。神小賽さ。又功臣をかく賞へ

行ひ。あらゆる山を造る小僧なり。さても氏元貞利が先考の遺命を受て  
とか難か候ひ。その忠信へ今さすがにいふべくもあらず。あれば白筆にて  
上手に金碗孝士が遣さりせば。つましく功業とこの地に建つてあらん  
とぞよ。又詩が書を残すまへ定色りうざう首をかくす。彼とことこと云ふる  
がとも。第一の勲績へさすがに下り。安西ホガ奸計をあてられ。軍法をうそ  
斬れん。欽兵糧竭く餓つゝ。敵のゐる小擒とちのうん。この二つ小過べうそ  
時かく清涼みく根る。一言の累屬ひとふ。待と賤し歎。歎殊ん。あは  
今宵ハ三星のあふとろり。日生小君臣上下の差あり。人の吉凶不備る  
とき既に天小折言す。當城の八隅城。八幡宮を建立す。秋母は祀より  
又領内小徇をしき。妙死殺と工紙禁わん。又金碗八郎考吉と長被  
半郡。兵庫を與へ。東條の城主とせん。氏元貞利が所領かく五千貫を  
究行ん。この旨あらぬりへと正首小説示へ。ひづく字かくせめひ。  
一通の感状を。おう孝吉が賜ふ。孝吉三つじ戴た。その修返すを至  
席を避へ。相傳補佐の老臣小先づし。あらきと。恩賞再度ふ及  
びせらか。推辞を。あらひなど某も。勤より。名利のぬくふ。不あらひ。し  
故主のあらよ。逆臣と。殊せん。と。のうの。寔小君が威福。よつて。山伯志成  
果ノひふ。どの人の恩惠。と。つが義実。も。序。名聞。榮利。かくら  
ら。功成。と。退く。覗。義士の志。ぬ。此。あらば。た。な。唐山の張良。ハ  
故主の為。小秦楚を滅。後竟。封爵。を。漢。す。と。是。而。田侯。小封せ。れ  
る。例あり。これ。高祖の徳。ある。ども。和殿。ハ。が。と。張良が。孤忠。は。一方。  
さ。又。功ある。人。を。賞。せ。ば。誰。そ。の。志。が。忠。孝。節。が。小。敵。を。を。枉。て。  
予。が。意。よ。徑。ひ。く。よ。と。渝。一。え。氏。元。も。貞。利。も。亦。こ。す。を。勤。め。く。彼。

八犬傳 卷之四

山青堂著

「子を殺す」  
「孝吉大義小死生」



感状とうらむ措ひ處ふせば金碗八郎へ己エ死ゆども小慶みくも國を  
 繰るも。賜じと辞へかうせば只脣ふ我意を立く恩義とあざる  
 ゆふ似くア。さりとて受て今さとふ故主へ對し不忠なり。愛と  
 愛がる孝吉がこの世あの世乃君がめよせんさゞあす。うひあへざ刀と  
 星光と引換て彼感状を巻そえら。肚へごこと突立玉バ。是れとおもく主  
 事みる。後三人ほとろ迎く居トアモ。義寔の臂と手をう揚く瘡口と。三者  
 かうきぬうち熟視尖刀をくへて互に助るへた瘍又あくびたりなげら  
 ての候ゆく。縛絶るハ稚う狂死といかざるべき。苦痛を忍びてうらはし  
 がくすやうりひ遠てよと宣ふ声を俟とくとや。信と向上と息を呴き  
 故主の枉死をせうと。この肚へもや切がへず。ふく定包を執りんぞと  
 そふむと存命ても方をどうゆくへ事成ゆ遂がく。時ありゆふと  
 月の宿遇。在大馬の房を喝せ。切々過る恩賞残今又ふ愛ゆく。  
 後あやけ。故主の枉死どうぶ幸と考め候く。存命か死むかとわたり。  
 加以落羽岡ゆく。定包をうんとせひくや。園主を傷ひをまつ。松木  
 朴平を垢三木の原某が豪傑。彼木を交藝。甘利が劍法をうじる。志  
 りとくひあづ。下司の兵法大痴の基が固む。孝吉が憤ふ似く。榆  
 がくじ存命をた。二え彼漢朝の張良。あくべをくじだ。かくすとへ  
 田横。死しての後も潔死志を慕ふ。君臣とく。松久の席ふ。行  
 非礼の罪へゆ。させりと小腰。宍火刀をやぐく右のこゝ。焼き  
 とをかね。彼木禁めよと考寔へ焦燥多。貞治氏不參。小携て脚綻へ  
 とあるから。其の旅宿。今さういそぐ。と辯。瓶。渴じて。義寔  
 数回嘆息し。と考吉が奉致。あくびふあくねとも。おろべと手を

おひた愁と恩賞の浄法とくその死を促せ。ごく生涯の恨みをされ八郎。  
 黄泉へえゆ汝の首途す。まつまつまつまつ。きそあきれあきる。  
 仰毛元氏元八郎とおもての縁教ふ立生く。上総の一派をやかめよとお  
 あやみゆゑむと。羨うり。といふ声も。鳴きよ。まよ。因ハ疾六十あまりの  
 莊客が前より其処はあく。榜の脚半甲掛裙も。折く右手ふ菅笠  
 たみぬ五本をうす。男児の蓬城被脣を屈やく。樹立間違後園の  
 折戸の蓬城立生く。まくと。氏元が招くやふ。縁教ふひをあけと  
 伸あぐり下八郎ど。孝吉も。上総より余下まく。一派ぐひと。女児  
 農耕み産せゆひし。その子ハ氣びひそ。まくやく弱來つる日。ふ壯功  
 あひ行ひゆそ。わいふとえうじばや。と恨も泣もも。かすみ。園をうちうく。ふ  
 実人の席と。影護なる。孝吉へ一派と名告る。彼等は目滅を免ゆち  
 そるのをねり。カモ。畠下折戸倉氏元ハ孝吉ふくも。對ひ八郎被残。立死りや  
 痛き。あさぎえ。スド。うぢ。ふざまく。うぢ。やだ。いつひ。  
 某館へある折戸の老人路次ふ在立金碗氏の第へ何処と。ふ後者ふ同  
 一。有繫小れを交換く。そ。その来歴を。あ。と。簡様。と。と。雜  
 見の。う。さ。生。の。ふ。も。指。せ。と。孝吉へ。け。宿所。ふ。あ。く。よ。う。の。う。ん。と  
 う。う。バ。こ。う。後。よ。跟。と。ち。あ。ま。と。そ。ぶ。降。ふ。君。所。へ。と。立。死。は。人。そ。且。縁。乃  
 て。を。老。人。ふ。告。志。く。せ。殿。へ。も。下。よ。う。う。そ。へ。奥。あ。る。工。ふ。な。ん。八。郎。  
 か。く。子。う。う。う。未。憑。た。の。と。ち。ぼ。く。正。き。み。づ。う。う。う。あ。ん。そ。と。そ。の。種  
 す。う。う。金。碗。か。あ。う。う。と。宣。ひ。た。こ。と。く。ふ。と。う。と。一。派。ハ。稚。兒。り。う。と。あ  
 は。園。ある。諸。折。戸。の。蓬。城。被。脣。を。り。よ。山。豆。か。り。へ。ん。や。そ。の。う。紙。  
 ま。ご。の。う。う。み。和。殿。ハ。自。殺。外。ろ。が。う。う。う。老。人。の。ひ。の。う。も。い。う。な。う。え。  
 せ。あ。く。今。般。不。親。と。子。の。名。告。成。ま。せ。ん。と。名。古。こ。と。ね。殿。の。賜。を。嘴。八。郎。と

み活まへ孝吉へや鉄筋機と約期み及び。親子の名告。それも餘すを  
みかん某主君を練うて、畠田を立去り。折上総門天明郡岡本より  
莊客ふ一作といひの、則件の老人入又が時々使わる私來でひへば某  
且く彼翁が宿所不足せ駆ゆる。旅宿の中より渠が女見濃萩が行ふとけ  
湯を浴せ。娘が女見濃萩の間を干とせの状と契つて。枕乃敷をかき  
みき。平ちくぬれとありけり。婦が告る。不才うれ驚異現乞情入  
意外の惡事。と世語小あり。人をり。往方定めぬ旅の空手。久  
恋の家からぬ縁。縁を果ぬ妹と夫の浮名滅立く誠あり。人の女見  
瑕痴て。今さう親が干ととて終て食をうけ。面ハス。浅す。死形。幸  
けり。二百遍悔。千遍悔。と。後悔其外。立ざま。志のびく。小濃萩も。  
堕胎せよと効ひの。別よ思へ。年よとの甲斐。やのを急。狀一通然  
一作又遠り。こそ閑村をまり去り。彼此又漏浪て五年といふ。その夏この日  
故主の枉死を傳へ。定包を極むと。竊不選る舊里の途の便差  
あたすき。一作群音つきに濃萩がゆへ。いふ小そと。臺ふも。問ひて  
たゞ。も。手よそ。の子ハ恙。す。産せ。く年來養育の誠をうすへひと  
きほ。面目なく。そひ。とり。声も。や。片息か。現理りと一作ハ慰み。ひ  
鼻うちか。有。轍。小。得。た。武夫も。恋み。脆き人情。况て。ちん身。妻。もろく。  
子も。ちうた旅宿の後然を慰やう。せ。女見濃萩ハ淫奔。小似。淫奔  
あ。じ。い。ば。こ。と。民。素。姓。か。の。ぐ。故。主。の。胤。を。宿。せ。し。彼。奴。ハ。天。晴。果。報。み  
佳。婚。が。ど。ち。う。う。で。ハ。婆。こ。り。共。又。欵。ひ。ら。あ。ま。ど。も。あ。と。ね。か。り。も。城。行  
と。う。精。し。き。ひ。け。ん。和。君。ハ。出。そ。か。り。う。づ。だ。往。方。を。索。り。ひ。く。と。女。見。ハ。総  
か。く。娘。月。小。産。か。と。せ。へ。男。見。え。あ。る。愛。て。と。祝。ぐ。間。か。く。濃。萩。も。積。に。

おぞひふ肥立と竟ふ十万億土断。くかくぬへとなむ。その初七日と二十七夜  
寔小面目を仰み米ひの内牛の乳を貰ひ生死をたゞ小三鬼流病患苦へ  
御る言の美小演竭さることなく。さんと赤子ハ健へ主と女児が欣目を  
とさんまふ可愛くいと惜く。各へ終日懐み夜ハ通宵父耶波女くが送代よ添  
ギ。トモやうやく立ハ政よといそし笑へば。めぐらしくとあえむるやも引伸び綿  
縷馬下索を綱孫ニ牽きく二番草。とて後も瘦田の案山子。おほ  
とく日と送す。年幼かきよく四とひふ去歲乃秋より婆安と病著片  
毛耳ゐなり看病ハ届ぬ棚の茶鍋喫兒不絆つゝ熬著ナシ。小煎一帖  
うちその年の大晦日少へ婆安と往生。忘脱の人生一木偶と稚兒とこまご只  
三人棺を守てあと五の年歳迎候。門松ハ冥土の旅の一里塚禪傍貞小悟て  
えて。曉かうたハ九支心六十八の今茲こそ生涯の憂苦患難をとるふ  
喪ともよどぎ足らず再三この大厄難。孫にも愧ど泣老父方へ春へ外山小  
糸矣。こまちひひとお。おけなをヒド。おふと笑れとも涙の垂冰凍解て佛へ折る背門の梅苔も恰好五ツ子父安分て笑  
ひゆ念仏は欠伸ひ難む宵迷ひ短夜るを。春過て卯月の下院寺上総の  
うちもぐ都四のる。初君より合戦の事隠坐る。口と下口ひが繫れ  
一ヶ是とうかよ勇ある。いわなむ坊んとろひくじ。歩行不便の老人々稚  
見負く戦場少ゆんはいと危い。時を俟んとぞひにして対をさむ。残  
るまぐらは。おもき。一作が悲しき物の脣ふむひりと。この子々人と成る後よ二親のうち白髪を  
達憾ハいくちうん嘯かま。おきてそあく房が峯まころれ顔えがむね  
指せえ稚兒ハ伸あぐ。峯まくる嘯と声立と。ゆく親ハ尺るむづく。物を  
なげ小動せ。脣の色変り。もや脇終と見え。ハ義寒ハ稚兒とほ二

ちく召す。とくとくかく。面教の父八郎よりく宵ノア。その名へ行ふ。まきど。  
と向せり。一俗も膳推屈くうち向土楚と定。一名ひの木と故主と女児。  
形見あらば。かうと二とと喰做せ。とや上までさぞあらん。二の子と我。  
みせく。又孝吉ハ予を輔。大なる功あり。これとその子れ名小著。し。  
金碗大輔孝徳と名告く。又が忠義を義嗣け。人と成る。敵のとて長枝  
半郡を列衣與く。東條の城主とせん。俗ハ外戚。ゆゑに御りて大輔。後  
見せよ。當坐の勸賞五百貫。あの稚児。よ取どるして。至る。其土の芭蕉丁  
ちく。佛果。とゆるや八郎。とゆび激。孝吉ハ鮮血小塗。手。左りば  
おもえ。おもえ。おもえ。おもえ。おもえ。おもえ。おもえ。おもえ。おもえ。おもえ。  
抗主君と辯を争り。まよひく。と引連は。刃の蹟。小大腸の切る。死。と細ニテ。  
人。と。人。と。人。と。人。と。人。と。人。と。人。と。人。と。人。と。人。と。人。と。人。と。  
じ。と。義寔ハ。と。佩刀を引抜く。みべ。と。背。小立。と。ハ良果。較る。八郎。

首の前かむちつけ。光期ハ。あく。の。據。き。一俗ハ。声戸を惜。む。泣。や。老乃  
諱言を。うけつ。蒼つ。氏元貞初。ひと王首。小扇。玉。ハ。釋児。貞。かく。と。駿。島。の。  
情由。あら。ご。緋。あら。親の頬。残。さ。一。祖。ても。亦。哀。れ。え。さ。と。六。金。碗。八。郎。が。死  
果。ると。元。星。墮。と。七。日の。月。ハ。西。よ。入。り。墮。と。と。心。火。内。死。女子の像。教。の  
と。大。輔。が。首。小。そ。あ。と。う。死。消。を。如。く。あ。り。小。け。す。と。立。て。残。る。の。義。寔。の。  
そ。の。餘。へ。と。ぐ。と。あ。り。が。死。た。か。く。と。義。寔。ハ。氏。元。貞。初。を。近。く。召。す。せ。考  
う。と。大。輔。が。首。小。そ。あ。と。う。死。消。を。如。く。あ。り。小。け。す。と。立。て。残。る。の。義。寔。の。  
吉。が。送。葬。大。輔。を。養。育。の。事。叮。噺。小。命。ド。ウ。ひ。ち。転。と。後。室。の。と。入。り  
ま。ひ。ぬ。時。ふ。漏。刻。高。く。音。し。く。夜。ハ。と。や。ま。中。ふ。な。り。よ。け。ま。  
他者云。この。辰。ヒ。月。の。初。旬。み。と。も。出。像。ハ。冬。の。夜。裳。小。幅。く。う。想。羅  
衣。ハ。画。く。と。も。精。ろ。と。ハ。定。う。な。う。ぬ。の。え。こ。と。う。ハ。画。者。の。好。み。ま。う  
と。と。取。時。筋。ふ。拘。う。ま。と。か。る。と。間。ま。う。と。聞。者。あ。く。咎。あ。ふ。る。

又の出像少く氏元をのみ出して負へれど其を大々こなすくぬりのども  
なとし。あふせんせんうなむされば副嗣氏を助けし。

又、卷端第一回結城合戦の條より。あふ至く僅小四ヶ月嘉吉  
元年四月小起アリ。あるド年の七月小終る。儀れひその間八十餘日れど  
ちん。第八回小至てハ年月遼々程程アリ。十六七年のゆ小及べ。

その間伏姫の成長歴をきくり。またせらも語あれかへ皆  
首略。こまうめ例めすなが。精鹿互々遠と異ふを  
うとべ柱小膠さくはれど次序伏櫻とりやとうとくもつをさん  
人のあふかるよ。さくみづく注し。

行者の岩窟小公羽伏姫を相モ

第八回

畠田乃近郊に狸齋狗を養フ

金成八郎孝吉が猛々自殺をうけ。走れあうさりのへ渠死る。ものより  
うる功ありく賞を辭。可惜命を亡び。また全く玉梓が罵らき。成  
愧あきらん。と難するものありとす。そきよかあうでいふ人の賢れ  
人の言のまづ小男子寡欲なまづ百害を退け。婦人又妬うまづ百害を  
掩ふといふ。況く道徳仁義をや。すまづ美寔の徳孤みうぎて鄰四の  
武士景慕し。奴成通じ婚縁と。慕ふを又えまづまづ。そが中少上總國  
椎津の城主萬里谷入道静蓮が息女五十子とひ做けるハ賢ふて妍だよ。  
夫実庶又侍へ坐く。とあへちこまく娶る。一女一男を産て。その  
第一女ハ嘉吉二年夏の季が生れ。東時三伏の時節を表す。伏姫。云  
名けよ。二郎ハその次の年をうり。又舉ひ。二郎太郎とぞ稱せよ。後少く  
箕求を以嗣く。安房守矣成といふ。稻村又在城。と。威ますく隆る。

志摩小伏姫ハ襪袴の中より儔ち。被竹節の中より生れし。少女也かくと  
るよもやま小肌膚ハ玉のじて徹す。産毛ハなぐ項又かれり。三十二相をも  
とづく缺ふるぬあつて。むかん父母の慈愛尋常小いやまと冊記の女房を  
えねあまう所。此彼殿傳す。ごりけども伏姫ハ夜とゆく日とたゞくむつをす。三  
歳よきよきとねばないひどせ大せじうち嘆きのまなむが毎むじしく  
かぶし。三年以未醫癒。高僧驗者の加持祈禱。ごと彼との一恩  
しも絶て驗へたす。不顯安房郡洲崎明神と唱せら。ひと上久  
島神社あり。この神社の山足ふたたびすなる石窟ありけり。窟の中よ  
石像あり。是ハ役行者なり。これより湧出る泉を鉢子水といふ。旱天も  
涸るをとす。むう丈尺のちん時。行君小角と伊豆の島へと流れる。  
当地ハ伊豆の大崎。海上僅よ十八里。小角を涉。波濤を踏く洲崎より

八犬傳 卷之四



うち衆の姉母が膝より抱き下り。外からじて左右より。うち囁まれて  
おも樂しげなうえもきらめく。途とがく啼ゑ。後者もち傷痛く。殊  
まことに。  
又お途城のそば。どうへと御崎小姓た明神の別當なる。養老  
寺の旅宿にて。後行者の石窟へ七日余を在る。かくてとも結願の日も果へる。  
後者ホハ帰館を促す。旅宿を出で。轎子ハ平郡のこ入一里むろ。  
來つてんとつて折返す。ひそむつうと。女房乳母ホ震きて。轎子ト至  
り。おあくせ。衆皆目賺す。かた抱ぜらる。おお途城のことを。と  
果敢して。浩れ。年。數八十あまりの翁一人。眉頭ハ八字。霜をかぎ。  
腰ゆハ梓の弓と張り。柄乃杖。持ひ。手に持ひ。途の真中。か憩ひ。故に。正階  
行う。且。後者ホハ先をぬ追む。そろと。翁ハ目をもやさず。伏坐を  
熟視す。と。互に里見の姫君。おとげ。石窟の大きなかば翁がか持て進む。

ふへあうざりけ。懃々實翁告び。あがえん。と名ひ。へん。老堂。老女。へ  
せん。と。ゆび。ひき。まづ。後者ホハ驚た。劇く見え。と。観彼翁が為体。凡人  
翁。小對ひ。緯の趣。些も隠さず。と云。と告ふ。けき。翁を。と。鳥ひ。と。  
寔。又靈の崇あり。と。互に。この子の不幸なり。禳ふよか。と。おへ。あう。終と。  
福。福。ハ。凶。禍。の。如。譬。バ。一個の子と失ふ。と。後。小縣の。相異を得。ハ。と。の。禍。も  
禍。あ。と。ご。損益の方。み。お。志。と。欲。が。づ。と。だ。哀。し。む。と。は。す。と。眼。と。  
え。と。戒。夫。婦。と。告。よ。と。互に。お。せん。護身。ゆ。せ。よ。お。ひ。お。へ。き。る  
と。あ。ぐ。と。榜。員。不。従。示。し。仁。義。礼。智。忠。信。孝。悌。の。八。字。を。形。す。と。水。晶。の  
珠。数。一。連。成。懷。よ。う。と。す。と。内。り。と。娘。の。衣。領。と。か。く。と。不。老。堂。老。女。と。  
劇。悉。ひ。く。り。お。お。額。浅。つ。た。冥。と。え。い。の。崇。や。く。ん。委。細。小。稅。く。後。く。お。ち。く。  
禳。鎮。と。お。い。終。と。り。バ。翁。ハ。うち。微。笑。狹。ハ。德。小。勝。工。と。う。や。思。冥。あ。ま。

いとも里見の家へすとく。宋ん盤はとねへかわすを衝。又何處う禳  
づえ。あとは委細ふ示しとたれ天機を漏さぬあそきある伏姫といふ名は  
よやまく。みづから暁とば暁得。もんさりとけりてうこの女の子が嘆とも止  
べたる。とくにれど。こよひはや罷る。といひうづく例崎のかへ入選るとゆふ。  
まほとおよび加く。升へるえどおやまゆけり。後者おへ忙然と。霎時其方と  
みぢ。御田を投げかる。役よ姫。うへむづくすうど快愉。遊戯を殊よ  
辯。御田を投げかる。役よ姫。うへむづくすうど快愉。遊戯を殊よ  
との日を。おじらとて。おのりひざゑ。尋常する。三歳児おやつ。おやえさせ  
。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。  
おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。おもひ。  
冥五十子。お坐りえあげ。件の株数。おおきな。大きくな。冥助。なれば。  
冥冥へうちもひぐど。又お義人貞。石窓へ遣して。  
衣領小被。させひけり。かく又四年あまりの春立。とく。姫君七才。よ  
幣帛と。獻玉姫。うのみ。後。災害消除と。祈しつ。株数と。常。伏姫の  
冥冥へうちもひぐど。又お義人貞。石窓へ遣して。  
ちよりと。金髪。下ト。和印を。生玉樹。も。おも。花を。締ぶ。天。作る。天  
顔。姿貌。世。小傭。お死の。な。ひざ。ひざ。ひと。怜憐。召。そ。ひざ。草紙。  
むひ。終日倦。おき。夜。絃管の。あ。小聴。と。更。闌。の。戦。お  
知覚。仇。お。う。う。和漢の。書藉。を。く。続。と。さく。事。の。道理。  
奉。が。き。を。常。佳。坐。次。え。え。させ。う。母。う。の。鐘。愛。う。が。さ。う。え。美。穴。ハ。心。う。お。う。入  
み。も。縫。う。う。ひ。け。す。が。く。こ。比。長。秋。郡。富。山。う。あ。お。う。う。村。落。ふ。寺  
禪。あり。け。字。枝。平。と。ゆ。ま。くる。莊。客。の。門。う。犬。子。を。口。む。と。つ。産。く。け。す。  
あ。の。杜。狗。あ。と。う。と。う。子。へ。逸。物。と。く。骨。星。一。く。力。だ。よ。く。

歎きぬる。とひまつて。枝平ひりと惜みく。背門小蓑蓋。昔。かくて。彼が  
産。軍と定め。朝夕糧のあまれを。ば與。どとの。かと。な。一かく。でも。や。七日  
む。ア。經。宿。宿ふ。その夜。背門かる。色と。段々。根へ。く。彼母犬を。啖。ト。く  
街。去。枝平。天明。後。血を。こく。と。と。死。ち。も。そ。け。と。打腹。うの。ま  
徳。を。ろ。十。九。離。狗。食。送。され。て。不。思。考。又。善。な。い。しき。せ。あ。て。め  
る。ゆ。あ。は。え。く。つ。不。役。の。物。よ。と。を。う。き。と。彼。へ。り。ま。ご。目。づ。ふ。る。用。を。  
乳。け。う。き。と。又。別。よ。と。養。ま。ん。よ。わ。を。れ。が。揭。糊。る。く。づ。め。の。底。を。  
田。畠。の。稼。一。く。宿。所。よ。あ。る。と。稀。う。き。だ。そ。の。ふ。ゆ。の。達。さ。す。れ。か。く。も。只。  
し。絞。束。締。つ。彼。が。死。る。武侯。の。三。と。男。ひ。捨。く。草。野。へ。生。一。日。二。日。と。經。宿。行。ゆ。  
多。月。怪。し。か。彼。離。狗。餓。る。毛。色。ハ。エ。ヌ。モ。ト。と。十。日。と。つ。ふ。目。休。固。結。つ。

肥。る。と。も。下。毛。小。ま。く。す。ま。お。ア。平。ひ。り。小。あ。と。び。と。く。人。ゆ。告。く。旦。暮。ふ。く。ア。ス  
附。く。窓。ひ。る。あ。る。お。ま。く。お。起。く。ア。ス。と。老。と。一。隻。の。狸。狗。菰。屋。よ。す  
ま。イ。生。く。富。山。の。う。え。ぞ。え。正。け。る。原。來。離。狗。ハ。彼。理。口。空。い。と。あ。と。え  
あ。と。ん。世。ふ。又。あ。る。ハ。と。へ。り。と。ハ。美。ど。こ。そ。も。い。う。ふ。只。顧。驚。嘆  
す。音。の。う。も。ゆ。く。と。び。楚。と。又。定。ん。と。ち。う。だ。さ。う。か。く。人。小。縉。と。む。そ。の。黃。宣。  
背。門。と。く。理。の。あ。る。父。や。う。祖。よ。離。狗。ハ。母。を。莫。忍。ひ。く。う。と。嘯。と。嘯。  
時。ふ。燐。火。う。入。魄。う。鄉。田。の。こ。よ。う。因。た。あ。く。中。天。よ。う。撲。地。と。義。彼。狗。頭。  
屋。の。ほ。と。ス。ノ。か。く。忍。然。と。滅。る。と。そ。ふ。す。今。朝。刃。一。理。の。そ。ぶ。一。け。み。富。一。  
き。の。う。ま。ま。來。て。菰。屋。の。内。へ。入。す。と。く。離。狗。ハ。頃。よ。啼。止。て。乳。を。吸。音。の。  
き。え。と。ま。か。く。と。四。五。十。日。を。燐。火。隨。ふ。大。ハ。も。大。き。う。な。り。て。よく。あ。る。  
却。う。食。べ。理。ハ。遂。可。見。じ。か。う。や。よ。う。と。今。も。こ。の。父。族。大。懸。と。魯。做。せ。王。

八十七傳卷之四

山青堂

帝の翁たむ。こまゆりいふべからへをとく。食只奇怪のひふ名へど王君の愛  
犬をめぐらし。毛肉みどりとおもやう。後くみ至りそく伏姫ゆえ。毛衣愛を  
端近へ出る日へ八房ことひせあは屋を揮ひ走まなづく。雲霧時もほとろ糸  
去さむとけむ。まむかは春の花秋の紅葉と歲通う梢の色を深うすく。伏姫二

八年ありて。つゝすらく。龍團と。自ひよだ々初花。ひきう。月残掛る。  
如。今茲の秋八月の比安西景連が米地ある。安房朝東の二郡穀物登る。  
とく。景連はく。老業。戸納平代使者とく。庵田の城へ遣して。長ま  
えい。か。天より領所。下忽地困窮せす。志。往ふ。領もこの  
處。豊かべと。徳使ぬ。於く。米穀五千俵を貸す。來年。御代し。倍。一、  
え。まう。景連。頼む。し。七用。おまとど。男兒。うそ。女子。ゆ  
返す。まう。景連。頼む。し。七用。おまとど。男兒。うそ。女子。ゆ  
き。農所の息を養ふて。一族の中増を憚。三河領代。娘。王與。と。女。ゆ

この。ゆき。ふ。許。一。期。の。車。ひ。基。と。ひと。叮。嚙。小。せ。け。玉。美。れ。を  
ま。や。

彼。召。く。こ。見。ふ。縣の。男兒。あ。と。が。安西。よ。養。む。と。亦。難。を。と。あ。と。と。

ひ。み。か。せ。ん。一。女。一。男。の。み。よ。う。か。今。伏。姫。を。遣。し。と。も。彼。入。妻。あ。と。女。を。見。ふ。

ト。自。他。よ。そ。の。益。あ。と。と。み。く。ど。一。事。ひ。兼。引。ぐ。一。又。豊。込。と。時。運。の。係。ゆ。

あ。ま。安。西。ぐ。う。の。み。よ。う。ん。や。鄰。固。の。荒。亡。を。坐。め。へ。と。互。承。故。も。天。咎。招。き。に。

養。女。の。一。幾。ハ。推。辭。べ。し。米。穀。ハ。形。の。び。く。是。ト。う。送。す。進。す。せ。い。と。正。首。ふ

ひ。答。一。く。納。平。然。そ。一。き。し。り。この。と。を。探。内。負。引。ハ。東。條。の。城。み。あ。り。又。根

ふ。も。り。う。お。じ。う。あ。る。倉。氏。元。ハ。老。病。よ。侵。さ。ま。く。う。筆。く。ゆ。よ。し。く。利。害。が。い。ふ。の。絶。て。う。

そ。が。中。不。金。破。大。輔。考。德。ハ。是。年。既。よ。七。歳。よ。ち。の。よ。め。義。実。の。近。習。そ。

外。祖。父。一。作。ハ。五。年。前。め。角。ま。う。す。そ。が。病。床。の。次。抱。ち。大。輔。み。づ。う。據。木。

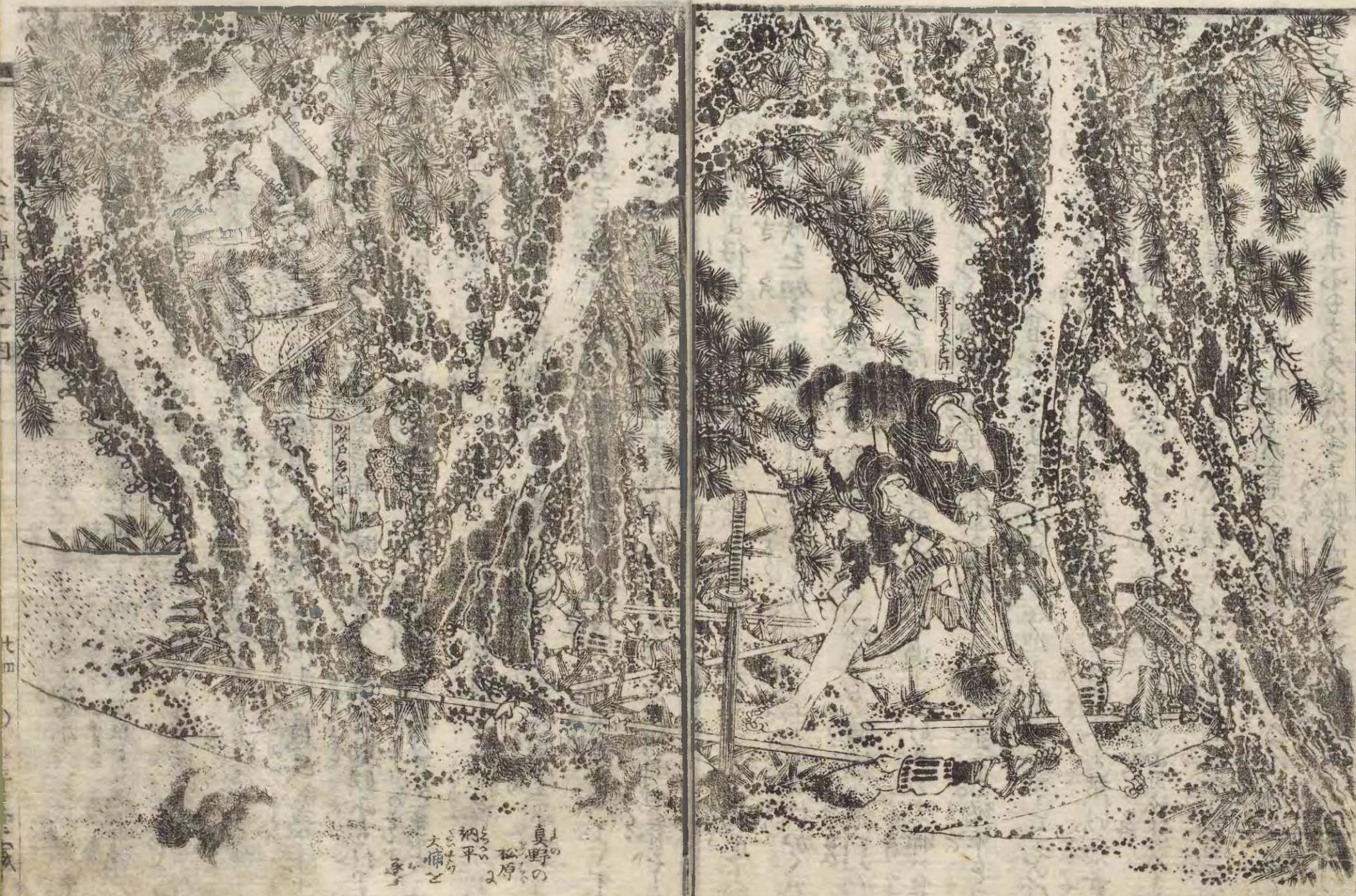
ち。く。鐵。き。る。物。と。い。と。も。奴。婢。ゆ。く。と。此。代。任。す。ち。う。と。も。う。と。く。孝。養。成。婚。

たる。加久生月あり。小火寺吉が志兵衛嗣。忠義援郡の狂役。君を練。景連生平ゆく疎遠にて事の難義小役。とて養を。未め穀と借る渠く因爲考る。かう。この時を以て。君を。奉。安房一圓を平均。おう。と疑ひ。ひみ。その乞ひ任。のを。糧を。賣。と。誓不刃と藉。と。かく。口出陣の准。と。あらす。所。と。憚る。氣を。たゞ。おう。み。と。兵実。と。兵。彼。汝弱輩の分際。と。行ふ。兵。と。も。兵。敵。う。と。い。ふ。と。も。凶。と。衆。と。攻。と。良。將。勇。士。せ。ざ。る。只。や。安西。景連。ハ。今。つ。り。が。み。と。仇。う。と。敵。故。る。と。と。千。戈。を。動。と。至。兵。三。名。の。軍。と。い。ふ。と。名。の。軍。ハ。入。後。方。と。と。一。ち。兵。の。兵。の。敵。う。と。敵。圍。と。け。と。敵。う。と。則。米。穀。五。千。俵。安。西。少。そ。贈。王。家。と。か。と。又。そ。の。明。の。年。長。宴。の。来。地。と。る。平。郡。長。被。へ。荒。作。と。と。景。連。が。采。地。の。と。八。西。ゆ。去年の秋。穀の。穀。兵。借。ひ。し。が。あ。あ。この。危。急。兵。知。な。が。ら。今。又。こ。と。兵。返。じ。と。る。彼。入。よ。乞。り。み。り。あ。と。ぬ。と。な。ど。と。や。債。と。り。が。る。と。や。う。じ。と。ち。が。く。と。美。實。ハ。大。神。を。と。が。子。の。ど。く。愛。と。う。と。他。乃。媚。と。あ。ん。う。と。と。陽。み。り。と。叱。ま。る。と。ど。く。志。兵。激。と。あ。は。渠。兵。も。セ。と。超。く。器。量。骨。相。親。又。芬。ら。び。か。と。が。今。茲。ハ。東。條。の。城。主。ふ。せ。ぞ。や。と。豫。う。用。意。兵。志。と。ど。も。る。と。そ。の。年。の。こ。う。た。兵。め。と。老。と。る。と。ふ。ハ。妬。と。ち。と。一。の。功。を。立。さ。せ。と。と。の。勸。賞。と。举。用。ひ。ん。と。ろ。ひ。か。最。中。か。と。べ。え。ぐ。の。り。せ。と。う。も。白。底。汝。が。經。論。予。が。意。よ。稱。へ。り。使。者。み。ハ。沒。と。遣。す。ん。き。と。

とて五千俵残あるより債あべくし。固様ひと叮囑。口状をすうえ治  
さて。次の日彼如へ遣り。さる程小金碗大浦孝徳へ後者十人あまりねて。  
馬み跨。鎧をぬく。未明又滝田を啓行し。只管足搔をいそがつ。夜と  
ひに續々。京連が真野の館へ走り。その老黨。甚戸訥平の對面。  
里見の米地五穀登り。縛をや難矣。よびゆる。主命を解よ逃る。  
五千俵の米をそ乞ひぬ。その口状懃懃。訥平ハ應ふ。則主人ふやうん  
と。そが修奥へいぬをしが。半日あまらず。身を走り。大浦ハ項と鶴にて今、  
今うどやく。宿より日へ暮ら。このとぞ甚戸訥平ハやうやく舊仇かゝりそ  
大輔又對といふ。向ひは美幸の姫代。委細は主人は告つた。京連  
對面まぐれども。いふせん。いふ。比より。風邪小犯さむ。今ふぬ犯ぞ  
去歳の秋そろそろ。危急を救ひ。ひしき。乞ひだとも倉を竭し。  
先恩又答へと別。又仔細ひき。荒年の後。あまく。あらゆもの手づ。物足りず。  
老黨を召。繫縛。綱を加え。有義辨。下。返答。よび。主人の口状かく。乃  
じ。且く當地より退角。入馬を付へ。と。りひく。みづ。旅館不殊引。り  
ひと叮囑。ふ歎待け。と。とく。と。宿。よろび。五六日と過。一。未け。大浦ハ焦  
燥。右を。返答。よろび。と。訥平ハ催促。あまく。ひく。責ら。と。訥平。と。又  
病。又假托。よろび。と。出會。と。あまく。至。大浦ハ忽地。疑心起。て。あび  
あび。小立。息をつく。城中の。傍人。澧ひ。馬少。馬具。足を被け。余量  
置。と散動。と。今出陣。と。る。如。こ。あ。う。ぬ。と。散馬。騒ぐ。冒頭。驚かす。  
彼主役。奸計。推量。あ。全く。と。出抜。と。凶。と。乗。不意。と。訥平。滝田を  
攻。と。とき。あ。る。今。一日。遅く。暁。と。竟の敵の擣となり。危。と。よ。と  
舌。と振。ひ。と。後者。ホ。ホ。の。と。え。城。ゆ。形。來。寢。姿。と。變。主役。一人。二。入。つ。

八太傳卷之四

青堂藏



縄の紛き小城を生々。澠田と投て走り。一里あまるまかかへ後色  
 あ後者と。あひもそれんと大浦ハ石瀬を擲て。咽と潤し。並木の松の尻を  
 みく。流す汗とどくをう。浩丸と訥平ハ軍兵をねぐ。迫薦車や。い。  
 真先ヨ馬を進り。燈燭張玉声とうけ。孝徳今さる外に。蓬。  
 女主たる景實ハ乞食。阿浪人白濱へ漂泊して。愚民と悉一。土  
 地と奪ひ。兩郡の主とろほ。麻呂信時と滅。安西公へをすく。出仕。死。大よ  
 かと六足腰と折め。臣附。又安西公へをすく。出仕。死。大よ  
 あとみぐう。傲慢。僅み米を進じ。うとく。巨歎債も。鄙吝。つす。  
 又その女兒伏姫が。妖艶。城を召。假み養女。操へ。実へ側室。ふなさ  
 きえとく。吾君召せ。ひーく。景實愚ゆ。後。此彼りく。不  
 礼をう。時ひよ。至ら。年來。あし。ひし。行時。春。と  
 おひ。汝ホ主後が愚さ。よ。ひま。おと。や。君ハ三千の軍馬を起。と  
 ちや。東條の城と。衆取。今ハ澠田と攻め。バ遷る。小途へなれり。戒命。とく。  
 車。正。推。と。よ。アガ。廣言。と。大浦ハ。ア。ふ。鳴。乎。か。マ。や。崩の  
 降。無せ。と。ほ。と。よ。アガ。廣言。と。大浦ハ。ア。ふ。鳴。乎。か。マ。や。崩の  
 車。正。推。と。よ。アガ。廣言。と。大浦ハ。ア。ふ。鳴。乎。か。マ。や。崩の  
 背。死。その地を。合口。と。足。と。せ。と。せ。と。君。斧。弑。を。加。え。と。乞。と  
 隣。小。鄰。の。好。と。結。せ。の。ひ。一。残。あ。よ。又。死。辛。と。ひ。う。ぞ。る。母。又。舛。智。と。め。ぐ。  
 と。て。曩。裏。の。夥。の。米。を。乞。と。約。よ。背。なく。今。か。返。さ。ば。虚。を。窺。ひ。凶。ふ。棄。と。  
 大。軍。然。り。と。攻。撃。し。も。皇。天。皇。土。へ。不。善。と。與。せ。ば。み。ぐ。う。敗。と。取。と。ん。と。境。よ  
 照。く。又。る。如。一。主。命。が。受。な。が。う。縄。成。ま。し。く。空。く。遷。る。孝。徳。が。ひ。裏。小。瀬。が  
 額。と。引。抜。と。見。系。よ。入。べ。た。其。外。る。退。と。と。捨。引。提。と。後。者。ホ。残。左。右。小  
 徒。へ。群。立。と。あ。景。勢。の。中。へ。面。も。ゆ。と。突。く。ア。緩。横。を。破。と。戦。ふ。た。ア。さ。と。び。

金碗大將ハ主従僅ふ七八人必死ともい決め小けを。射れども敵とも物とぞ  
せば。奪へ殺れつ。追ひて入る。半時あまりの血戦より敵ハ三十餘騎殺れり。  
死骸ハ路上小横り。躬方ハ七人傘と隕して。大將もとうふおれしきどなむ  
一歩も退ふ。訥平小組んとく。出没不測。又走り遣り。敵ハ目小あまる  
も甚。遂に人馬小隔らきて。石の遂。伏あらず。夫君子と欺く  
大勢え。遂に人馬小隔らきて。石の遂。伏あらず。夫君子と欺く  
べ。陷るべく。と貪者のひき定ふ者。義実ハ蓋世の良将。一心りそ  
民を掩ひ。信りつく。鄰郡より文ふ。景京連奸。陥彊る。これと期くよ  
その方となりて。且て至死疑ふ。君子の人と稱さる不足じ。義実  
子産が才ありとも。その欺詐よかと見ゆる。抑亦寧ろうじや。

南總里見八犬傳卷之四

後

